

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：34523

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00247

研究課題名(和文) 与島五島における伝統文化の持続的継承と発展に関する基盤研究

研究課題名(英文) Toward Sustainable Development of Traditional Culture in the Yoshima Goto Area

研究代表者

戸矢崎 満男 (Toyazaki, Mitsuo)

神戸芸術工科大学・芸術工学部・教授

研究者番号：10227647

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：瀬戸内の与島五島(沙弥島・瀬居島・与島・岩黒島・櫃石島)の地理的、歴史的、文化的な調査と伝統文化の持続的継承を目的とした「地域連携型アート・プロジェクト」のための基礎研究を行った。瀬戸大橋で繋がる香川県の与島五島は、過疎化などの問題が進む中で、伝統行事などを絶やさず継承している。特徴ある「盆踊り」の現状や、空海の影響濃い「お大師市」を調査し、マップ制作などを行った。瀬居島では、3年ごとに開催される「瀬戸内国際芸術祭」に合わせて、地域連携型アート・プロジェクトを坂出市及び地域住民と共同で計画した。研究を基にした瀬居島アートプロジェクトは、2019・2022年に実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の各地方が過疎などにより伝統文化が失われている現代で、本研究は瀬戸内地方の特徴を記録し、魅力を解明して、伝統を継承するための貴重な研究記録となっている。現地調査での写真や聞き取りなどを記録誌「与島五島の伝統文化とアートプロジェクト」としてまとめ、関係者及び公的な図書館等に永く保存することができた。研究期間内には、ワークショップなどで多くの住民と交流を図った。この基礎研究により、地域特有のアート作品を住民と共に計画して、プロジェクトの実施につながった。

研究成果の概要(英文)：Based on the geographical, historical, and cultural research of the five islands of Yoshima (Shamijima, Seijima, Yoshima, Iwakurojima, and Hitsuishijima) in Setouchi, a regional alliance type with the aim of sustainable inheritance of traditional culture. Conducted basic research for an art project.

The five islands of Yoshima in Kagawa Prefecture has the characteristic of being connected by the Seto Ohashi Bridge, and while problems such as depopulation are advancing, it continues to inherit traditional events. We investigated the current state of the characteristic "Bon Odori" and "Odaishiichi", which is strongly influenced by Kukai, and created maps. On Seijima, a community-based art project was planned jointly with Sakaide City and local residents to coincide with the Setouchi Triennale, which is held every three years. The Seijima Art Project based on the research was carried out in 2019 and 2022.

研究分野：現代美術

キーワード：伝統文化 アートプロジェクト 持続的継承 瀬戸内 地域連携型 芸術祭

1. 研究開始当初の背景

日本には 400 近くの離島が存在することから、日本の離島研究はこれまで比較的盛んに行われてきた。従来の地理学や民俗学的な離島研究に加えて、1950 年代には、離島復興政策により離島研究は観光学や社会学なども関連付けて語られることが多くなった（離島研究 V 海青社 2014）。そして、近年の新たな動向として 2010 年の瀬戸内国際芸術祭を皮切りに、離島を舞台にした「地域連携型アートプロジェクト」という全く新しい切り口がそれに加わったことで、離島ならびに離島研究の新たな可能性と活用への注目が高まっている。

2016 年には、日本の「山・鉾（ほこ）・屋台行事」がユネスコの無形文化遺産に登録されたものの、過疎化の進む地域の伝統行事の継続については決して恵まれた状況であるとはいえない。例えば、都道府県指定の無形民俗文化財は 1651 件（文化庁 2016）にのぼるが、高齢過疎化などの理由から現在では 60 件もの伝統行事が休廃止（共同通信 2017）に追い込まれている。離島の過疎化は特に深刻であり、本研究の対象である与島・櫃石の盆踊は過疎高齢化により継続が困難になりつつある。また、島によっては、過疎高齢化や石仏の老朽化のために島四国というお遍路・接待の伝統文化が継続の危機にある中で瀬居島のお大師市については地域をあげて継続しているので、早急に記録・調査を行い持続的継承の方法論を構築する必要があると考える。

2. 研究の目的

瀬戸内海は、古代・中世より主要な水路として活用されてきた。瀬戸内に浮かぶ島々では、内海特有の潮の流れに起因する漂流・漂着により多種多様な文化や技術が流入し、離島という地理的隔離性もあいまって島固有の個性豊かな文化が育まれてきた。本研究は、高度経済成長期による埋め立てと瀬戸大橋の建設により地理的環境が大きく変化した香川県与島五島（沙弥島、瀬居島・与島・岩黒島・櫃石島）を対象に、それら各島の伝統文化、とりわけ、与島・櫃石の盆踊（無形民俗文化財）や瀬居島のお大師市をはじめとする島固有の祭礼を含む伝統文化の伝播、受容、変容などの実態を比較調査し、各島の特殊性と 5 島の共通性を明らかにする。さらに、本調査で得た知見や写真・記録映像を活用し、伝統文化の継承・発展を目的とした記録やマップの作成・関連ワークショップなどのイベントを実施し、その後、それら諸活動を汎用化させることで持続的継承のあり方を探る。

本研究メンバーである戸矢崎・藤山・さくまは、『沙弥島アートプロジェクト』として「瀬戸内国際芸術祭」（2013・2016）、かわいは 2016 年の同プロジェクトに出品作家として参加した経験をもつ。香川県坂出市沙弥島、旧沙弥小中学校を会場に、戸矢崎とさくまは現代アート、藤山は環境建築、かわいのアートプロジェクトおよびビジュアルデザインなど各自の専門性を生かしながら、沙弥島の魅力や歴史・文化・自然風土にまつわる作品制作・発表を行ってきた。さらに、2013・2014・2015 年にも同会場にて作品展示・ワークショップなど「Art Setouchi」関連イベントを開催している。このように本研究メンバーは、2012 年に同芸術祭の準備を開始してから数年間に渡り、坂出市役所にぎわい室と連携しながら同アートプロジェクトを継続してきた。今後、さらに関係性を持続させ、新たな創造性を育むために、沙弥島ならびにその周辺の与島五島における伝統文化についての研究調査を行うことで地域住民の生命観や美意識といった精神性を明らかにし当該地域への理解を深める。

3. 研究の方法

与島五島における祭礼を含む伝統行事を選定し、各行事について文献調査・現地調査を行い「瀬戸大橋建設・埋め立てによる各島の変容」「社会・文化・宗教的背景」「祭礼空間・祭礼用具における象徴性」の側面から各島の伝統文化の現状を把握し、その比較分析を行う。

(a) 開発に伴う具体的な人口推移、人の往来、暮らし、意識変化の推移など文献調査・現地でのヒアリングを行う。さらに、選定した伝統行事の記録の収集と分析を行い行事がどのように継承されてきたか・変容したかの実態を把握する。

(b) 各島のコミュニティ形成、外来文化の受容、宗教観、例えば、与島・櫃石の盆踊と瀬居島のお大師市にある「空海の真言密教」という共通項があるなど、行事とそれを司る宗教の関連性についても研究調査する。

(c) 各島の各行事の祭礼空間・衣装を含む祭礼用具の記録映像・画像収集し比較分析することで各島固有の美意識や生命観などを導き出す。また、時代の流れにより省略化・置き換えなどされつつ今なお現存するものを観察することで、時代・物質を超えた普遍性や象徴性といった島固有の精神性を導き出す。

(d) 研究メンバーが関わった国際芸術祭での活動の経緯を改めて集約し、その意義や方向性について評価と分析を行い、アートプロジェクトの可能性を考える。

(e) 研究によって得た知見や地域との関係を生かしてアートプロジェクトを計画する。その際の作品制作は研究の対象ではないが、サイトスペシフィックを目指す国際的芸術祭において、知見の深さや住民との関係性は重要となる。共同の計画で、交流の機会を数多く持つ。

4. 研究成果

現地調査での写真撮影や聞き取りなどによる研究の考察を記録冊子「与島五島の伝統文化とアートプロジェクト」(A5サイズ、74頁)としてまとめた。記録として写真を重視し、サイズを大きく扱い、多数の写真から厳選したものと図を合わせて74点を収録した。関係各所及び公的な図書館等に配布し、永く保存することができた。記録冊子の項目と要約は以下となる。記録としては、本研究の直接の目的ではない[瀬戸内国際芸術祭]の関連イベントとして、瀬居島でのアートプロジェクトの成果も紹介し報告とした。

(1) 与島五島の地形と歴史

与島五島(沙弥島・瀬居島・与島・岩黒島・櫃石島)を島ごとに、歴史と地形と伝統文化を調査し考察した。特に、瀬戸大橋との関係性、及び埋め立てによる影響などを探った。各島の面積と人口比や過疎の現状について報告した。



瀬居島の上空から瀬戸大橋に向かい坂出市を撮影



春の瀬戸大橋と瀬戸内の島々を岡山県側から望む

(2) 沙弥島と瀬戸内国際芸術祭

研究メンバーが沙弥島を舞台に[瀬戸内国際芸術祭](2013・2016)での作品制作のために行った『沙弥島アートプロジェクト』を解説し、改めて瀬戸内の島にとってのアートプロジェクトの社会的な意義について考察した。



[瀬戸内国際芸術祭 2013] 沙弥島会場(旧小中学校)



[瀬戸内国際芸術祭 2016] 沙弥島会場プロジェクト作品

(3) 与島五島と「盆踊り」

五島での「盆踊り」の現状は、参加者数、及び特徴ある白い盆灯籠においても、各島により大きく異なる。中では、与島と櫃石島が位牌を背負って踊るもので、無形の文化財に選ばれている。現在までの経緯や今後の問題について言及した。



与島の盆行事での読経で橋を背景に盆灯籠を立てる



櫃石島の盆踊りは与島と同じく位牌を背負って踊る

(4)「お大師さま衣替え」と「秋祭り」

瀬居島での「お大師さま衣替え」と「秋祭り」の二つの行事から、伝統文化としての現状と魅力を考察した。特に「秋祭り」は島をあげて盛大に行われ、瀬居八幡神社から出た神輿が、二艘を繋いだ船上に乗せられ、大漁旗をなびかせて海原を練り歩く。



瀬居島の2隻の船に神輿を乗せて海原を練り進む



瀬居島「秋祭り」神輿の経路図

(5)「お大師市」とアートワークショップ

お大師は、弘法大師・空海を敬う言葉で、毎年4月29日に四国八十八ヶ所をコンパクトにまとめた「お大師市」が行われる。それに合わせて、少数となった島の小学生と「おもてなし」アートワークショップを行い、パンフレットを共同で制作した。



お大師市パンフレット(A4版見開き4頁)のマップ



瀬居小学校の体育館を会場にワークショップを行う

(6)アートプロジェクトと瀬居島

〔瀬戸内国際芸術祭 2019〕県内連携事業として、瀬居島を舞台に、調査研究をベースにしたアート作品制作を計画し、『瀬居島アートプロジェクト』として、住民と共同によるワークショップ形式の制作を長期に行う中で、研究から得た知見を生かした。



〔神戸芸術工科大学アートプロジェクト 2019〕壁画作品



瀬居島での古民家を会場にしたアートプロジェクト作品

研究期間では、坂出市役所にぎわい室と連携し、坂出市民と地域住民が多数参加したワークショップなどを数多く行い、市民と交流を図り社会に発信した。

この基礎研究により、地域特有のアート作品を住民と共に計画したアートプロジェクトは、〔瀬戸内国際芸術祭〕と連携することにより、多くの来場者を迎え、瀬戸内の島の魅力を広く伝えることができた。そして、目的とした伝統文化の持続的継承は、島の住民との交流や島の魅力を発信するアートプロジェクトが意義深い活動となり、活性化を促した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

現地調査での写真撮影や聞き取りなどによる研究の考察を記録冊子「与島五島の伝統文化とアートプロジェクト」(A5サイズ、74頁)としてまとめた。記録として写真を重視し、サイズを大きく扱い、多数の写真から厳選したものと図を合わせて74点を収録した。関係各所及び公的な図書館等に配布し、永く保存することができた。記録冊子の項目は以下となる。
 (1)与島五島の地形と歴史(2)沙弥島と瀬戸内国際芸術祭(3)与島五島と「盆踊り」(4)「お大師さま衣替え」と「秋祭り」(5)「お大師市」とアートワークショップ(6)アートプロジェクトと瀬居島
 記録としては、本研究の直接の目的ではない[瀬戸内国際芸術祭]の関連イベントとして、瀬居島でのアートプロジェクトの成果も紹介し報告とした。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	さくま はな (SAKUMA Hana) (00589202)	神戸芸術工科大学・芸術工学部・准教授 (34523)	
研究分担者	藤山 哲朗 (FUJIYAMA Tetsuro) (10278856)	神戸芸術工科大学・芸術工学部・教授 (34523)	
研究分担者	川井 広之(かわいひろゆき) (KAWAI Hiroyuki) (10341017)	神戸芸術工科大学・芸術工学部・教授 (34523)	
研究分担者	尹 智博 (YOON Jibak) (90549677)	神戸芸術工科大学・芸術工学部・助教 (34523)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------